

【2024 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
運動学実習	OSF23-001 HSF22-003	(作) 必修 (福.人) 選択	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
岡 猛 他	C316	takeru.oka	水 14:40~16:10		
授業の目的・概要	運動学 I・II で学んだ知識を用いて、実際に関節や筋、動きを観察・測定し、運動学的に判断できるようになることを目的とする。また、3 年次以降の演習・実習等にて必要となる基礎的知識の習得を目的とする。筋・骨の触診はペアごとに確認を行い、実技試験を実施する。各実習は数名程度のグループに分け、提示した課題の測定や計測を行う。得られた実習結果についてグループ内で話し発表準備を行う時間を設ける。発表後に小テストを行うことで知識の確認を行う。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	この授業では運動学で学んだ知識が必要となるので、授業の教科書を復習しておくことが望ましい。ペアやグループでの確認や話し合い、発表することによって理解度は大きく向上する。実技は反復練習が重要である。				
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学実習/ 総集編：石川朗 他/ 中山書店/ 2016				
参考書	筋骨格系のキネジオロジー 第3版/ 著：Donald A. Neumann/ 医歯薬出版 機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版/ 監：青木隆明/ メジカルビュー 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版/ 監：青木隆明/ メジカルビュー 基礎運動学 第6版補訂/ 著：中村隆一 他/ 医歯薬出版				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	筋や骨の触診をして実際に部位や収縮を確認できる。			OT (2)	
②	実習結果を運動学的に分析し、身体運動・動作の特徴や仕組みを理解する。			OT (2)	
③	実習を通じて運動学的計測手法について理解する。			OT (2)	
④	分析結果をまとめ、発表することができる。			OT (2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション レポートの記載方法、発表方法について説明する。 実習①：関節運動 (上肢・下肢・体幹) ・膝関節肢位の違いによる股関節の角度 ・足アーチの観察 ・肩甲上腕リズム ・テノデシスアクションによる手指関節角度の変化 ・骨盤前後傾に伴う脊柱の動き ・肩関節内外旋の角度	講義・実習 担当(岡)	0		
2	実習①の討論：1回目	GW、討論 担当(岡)	0		
3	実習①の討論：2回目	GW、討論 担当(岡)	0		
4	実習①の発表	担当(岡)	0		
5	実習①に関する小テストを行う。 実習②：姿勢分析・重心・立ち直り反応 ・安静立位姿勢のアライメント評価 ・身体重心位置と支持基底面の関係 ・感覚入力の違いによる立位時重心動揺の影響 ・外乱時の立ち直り・バランス反応の観察 ・機能的リーチ検査	小テスト 講義・実習 担当(小川)	0		
6	実習②の討論：1回目	GW、討論 担当(小川)	0		

【2024 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

7	実習②の討論：2 回目	GW、討論 担当(小川)		0
8	実習②の発表	担当(小川)		0
9-10	実習②に関する小テストを行う。 実習③：骨・筋の触診（上肢） ・上肢の骨や筋を観察し、実際に触れて確認する。	小テスト 講義・実習 担当(岡)		0
11-12	実習③：骨・筋の触診（下肢・体幹） ・下肢・体幹の骨や筋を観察し、実際に触れて確認する。	実習 担当(小川)		0
13-14	実習③の小テスト（実技） ・触診の確認：骨・筋の触診を実技にて確認する。	小テスト 担当(岡、小川)		0
15	実習④：立ち上がり・歩行動作の分析 ・立ち上がり動作（足部位置の違い） ・立ち上がりに対する筋活動 ・歩行動作 ・歩行速度による変化や走行との違い	小テスト 講義・実習 担当(岡)		0
16	実習④の討論：1 回目	GW、討論 担当(岡)		0
17	実習④の討論：2 回目	GW、討論 担当(岡)		0
18	実習④の発表	発表 担当(岡)		0
19	実習④に関する小テストを行う。 実習⑤：CPX・筋力の測定 ・膝関節トルクの計測（ハンドヘルド） ・手関節肢位の変化による握力発揮の違い ・6分間歩行テスト（6MWT） ・心肺運動負荷試験（CPX）	小テスト 講義・実習 担当(小川)		0
20	実習⑤の討論：1 回目	GW、討論 担当(小川)		0
21	実習⑤の討論：2 回目	GW、討論 担当(小川)		0
22	実習⑤の発表	発表 担当(小川)		0
23	実習⑤に関する小テストを行う。 全体の振り返り	小テスト 担当(岡、小川)		0
試	達成度評価（評価の実施方法と注意点）を参照			

【2024 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		60	0	40	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	60	0	10	0	0	70
	思考・推論・創造する力	0	0	15	0	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	15	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	触診の実技試験（1回）、各発表後に実施する小テスト（4回）の計5回の成績で評価する。発表後の小テストは全グループの発表した内容から出題する。				触診の実技試験では終了後すぐに間違いのあったところを指摘する。小テストは試験後に振り返りを行う。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①		4回の実習後に事前に指定された課題について発表準備を行い、スライド発表を行う。評価項目は態度、考察内容、適切な発表、適切な文献の使用、質疑応答の内容とする。				発表後にフィードバックを行う。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①		4回の実習後に事前に指定された課題について発表準備を行い、スライド発表を行う。評価項目は態度、考察内容、適切な発表、適切な文献の使用、質疑応答の内容とする。				発表後にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	小川 麻里子						
教員の実務経験	全ての教員が作業療法士として10年以上の臨床業務経験を有する。						
実践的授業の内容	臨床での運動学の知識の活用や疾患の説明を加えることにより、実践的な運動学に関する知識と技術の獲得を促す。						
そ の 他	授業は対面授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。 授業内で測定などを行う際は動きやすい服装で準備をしておくこと。 受講態度に問題がある学生は退室をしてもらうので注意すること。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況等社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。 課題提出は Teams を使って行う。						